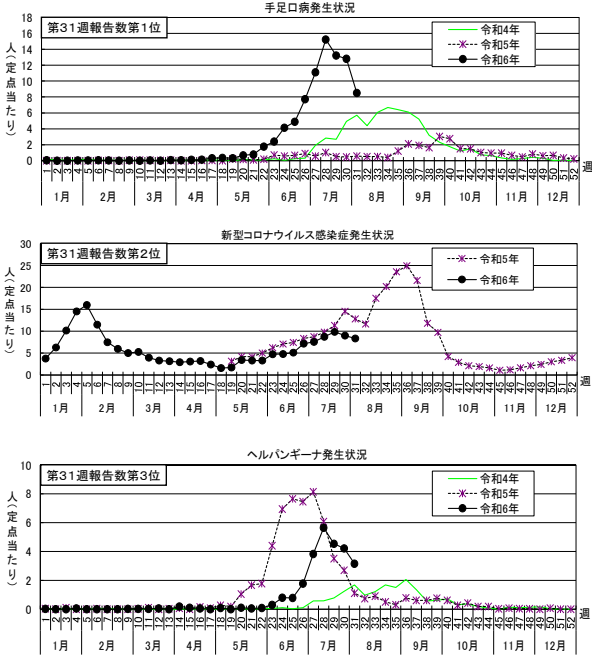


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年7月29日（月）～令和6年8月4日（日）〔令和6年第31週〕の感染症発生状況

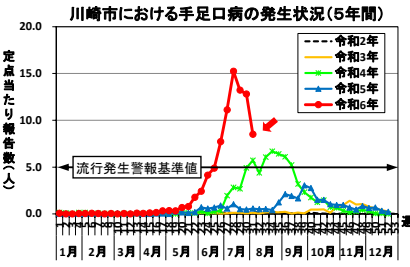
第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は8.51人と前週（12.81人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は8.35人と前週（9.00人）から横ばいでした。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.16人と前週（4.22人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



手足口病～手、足、口以外の発しんにも御注意ください！～

川崎市では、6月下旬から手足口病の大きな流行がみられており、令和6年第31週（7月29日～8月4日）の定点当たり報告数は8.51人と減少したものの、依然として流行は続いています。

手足口病の典型的な症状は、手や足、口等にみられる水疱性の発しんです。主な病原体はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスであり、令和6年に健康安全研究所に搬入された検体からは、コクサッキーウイルスA6型（CA6）が多く検出されています。CA6に感染すると、典型的な症状以外にも大腿部や臀部等に通常より大きな皮しんがみられることがあります。症状が似ている疾患もあるため、日頃から周囲の流行状況を確認するとともに、お子さんの体に皮しんがみられた際は、早めに医療機関を受診しましょう。



手足口病とは？

主な病原体：コクサッキーウイルスA6型及びA16型、エンテロウイルスA71型等
感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染
好発年齢：2歳以下が半数を占める。
潜伏期間：3～5日
典型的な症状：軽度の発熱、手掌、足底・足背及び口腔内の粘膜などに水疱性の発しん
 ※手足口病の発症後、数週間後に爪が剥がれ落ちる症例（爪甲脱落症）が報告されていますが、新しい爪が生えれば元に戻るとされています。

川崎市 KAWASAKI CITY

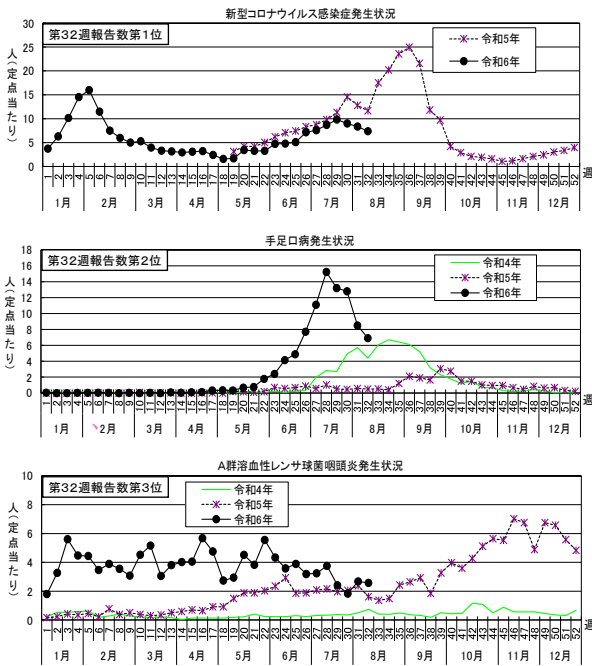
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年8月6日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年8月5日（月）～令和6年8月11日（日）〔令和6年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）手足口病 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.38人と前週（8.35人）から減少しました。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.91人と前週（8.51人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.57人と前週（2.68人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



帰国後の体調不良に御注意ください！

夏休みに海外旅行をされた方、される予定の方も多くいらっしゃると思います。帰国後に発熱や下痢等の体調不良を訴えるケースは比較的多いとされており、ほとんどは数日で軽快しますが、思わぬ感染症に罹患している可能性もあります。帰国後、数週間程度は体調を確認し、体調不良や症状の悪化がみられた場合は、事前に医療機関に電話等で相談の上、受診を検討しましょう。また、受診の際は症状だけでなく、渡航先、渡航期間、旅行中の行動等に加え、ワクチンの接種歴も必ず伝えましょう。

医療機関受診前のチェックリスト

<p>発熱がある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> □熱が上がったり下がったりしている。 □高熱（又は微熱）がずっと続いている。 ・発熱はいつ頃から（月日） <p>【発熱をきたす感染症】 麻疹、デング熱、マラリア等</p>	<p>皮膚の異常がある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> □できものがある。 □発しんがある。 □水膨れがある。 □化膿している。 □皮膚の異常はいつ頃から（月日） <p>【皮膚の異常をきたす感染症】 麻疹、風しん、デング熱等</p>	<p>下痢がある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下痢の性状は（□水のよう、□泥状、□軟便、□血便） ・下痢の回数は1日に（□10回以上、□10回未満） ・下痢はいつ頃から（月日） <p>【下痢をきたす感染症】 細菌性赤痢、コレラ等</p>
---	---	--

【旅行中の行動】

- 生の水又は川や湖の水を飲んだ。
- 氷入りの飲み物を飲んだ。
- 加熱されていない食物を食べた。
- 屋上の食品を食べた。
- 湖や川の中に入った（水に触った）。
- 蚊又は何らかの虫に刺された。
- ダニに咬まれた。
- 動物に咬まれた、触った。
- 周囲に体調の悪い人がいた。
- 現地で治療を受けた。

厚労省検疫所（FORTH）ホームページ 「医療機関受診前のチェックリスト」から抜粋

川崎市 KAWASAKI CITY

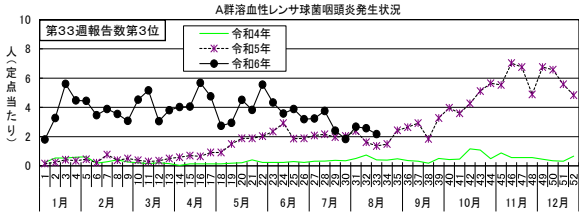
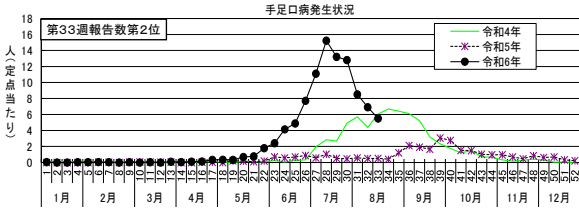
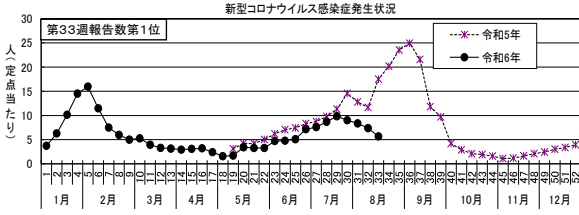
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年8月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年8月12日（月）～令和6年8月18日（日）〔令和6年第33週〕の感染症発生状況

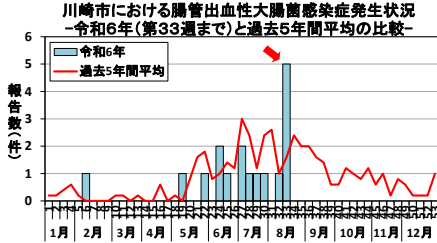
第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.68人と前週（7.49人）から減少しました。
 手足口病の定点当たり患者報告数は5.50人と前週（6.78人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.18人と前週（2.50人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症の報告数が急増しました！

腸管出血性大腸菌感染症は腹痛や下痢、血便等の消化器症状を引き起こす感染症で、特に夏場は食中毒の原因にもなります。川崎市における令和6年の報告数は、週0～2件と例年と比べてやや低いレベルで推移していましたが、第33週（8月12日～18日）は5件の報告があり、急激に増加しました。

腸管出血性大腸菌は牛等の家畜の腸管内に常在するため、肉類は菌に汚染されている可能性があります。感染を防ぐためには、食材を十分に加熱（中心部の温度75℃で1分以上）し、生肉や加熱不十分な肉類の喫食を避けることが重要です。また、腸管出血性大腸菌は、汚染された人の手や調理器具等を介して感染することもあります。食品を取り扱う際は、手洗いや調理器具の洗浄等、食中毒予防の3原則（つけない・増やさない・やっつける）を徹底しましょう。



食中毒予防の3原則

つけない 食事前、排便後の手洗い・消毒 調理器具の洗浄・消毒、使い分け	増やさない 食材の適切な温度での保存 調理後はすぐに喫食
やっつける 食材の十分な加熱（75℃で1分以上） 調理器具は洗剤を使用して洗浄後、殺菌	

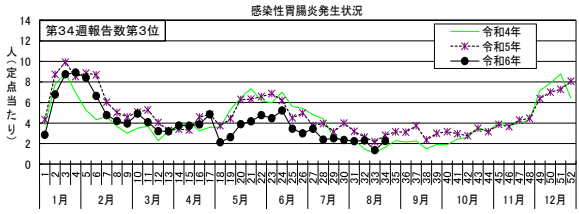
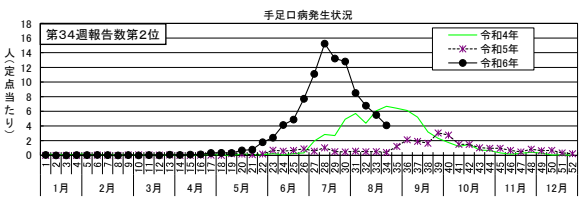
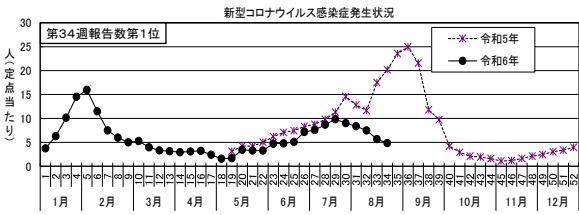
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年8月20日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年8月19日（月）～令和6年8月25日（日）〔令和6年第34週〕の感染症発生状況

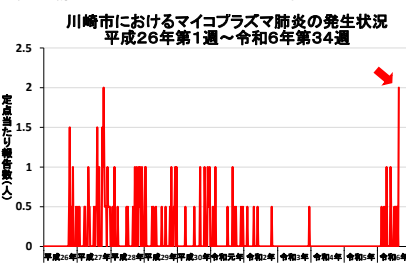
第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) 手足口病 3) 感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.83人と前週（5.62人）から横ばいでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は4.08人と前週（5.50人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.25人と前週（1.36人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



今、気をつけたい感染症～マイコプラズマ肺炎～

マイコプラズマ肺炎は、かつては数年周期で大きな流行がみられていましたが、川崎市では平成27年の流行を最後に患者報告数は減少し、近年では新型コロナウイルス感染症の流行による影響を受けて、報告はほとんどみられなくなりました。しかし、令和6年に入り再び報告数が増加しています。

マイコプラズマ肺炎の主な症状は、発熱やだるさ、頭痛、乾いた咳であり、熱が下がった後も咳が3～4週間程度続くのが特徴です。多くは軽症のまま回復しますが、肺炎を併発し入院が必要となることもあります。飛沫及び接触により感染するため、特に家庭内や集団施設内では感染のリスクが高いといわれています。咳等の症状がある場合は、マスクの着用や咳エチケット等の予防対策の徹底を心がけましょう。



マイコプラズマ肺炎とは？

病原体 ：肺炎マイコプラズマ 感染経路 ：飛沫感染、接触感染 潜伏期間 ：2～3週間 主な症状 ：発熱、だるさ、頭痛、乾いた咳 好発年齢 ：14歳以下が約8割を占める。 治療 ：抗菌薬の投与等 予防対策
マスクの着用 咳エチケット 手指衛生

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年8月27日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年8月26日（月）～令和6年9月1日（日）〔令和6年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は7.38人と前週（4.08人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は6.11人と前週（4.83人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.76人と前週（2.25人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～エムボックス～

エムボックスは、かつてはサル痘と呼ばれていた感染症で、エムボックスウイルスを保有する動物や人との接触等で感染します。現在、アフリカを中心に急速に感染が拡大しており、世界保健機関（WHO）が再び「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言しました。

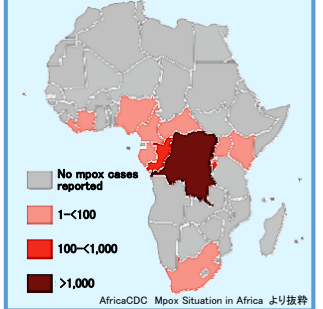
エムボックスウイルスには複数の型があり、令和4年には欧米を中心にクレードⅡ（西アフリカ型）と呼ばれる型が流行しましたが、今年はより重症化しやすいとされるクレードⅠ（コンゴ盆地型）が流行しています。

エムボックスは、水疱性の発しんが出現し、水痘等との鑑別が難しい疾患です。流行国に滞在歴がある方で、発しん等の症状が出現した場合は、医療機関に御相談ください。

エムボックスとは？

- 【感染経路】 感染した動物や人の血液、体液、皮膚病変部との接触により感染
 - 【潜伏期間】 5～21日間（通常7～14日間）
 - 【主な症状】 発熱やリンパ節の腫脹が数日続いた後、顔面を中心に水疱性の発しんが出現（手のひらや足底、性的接触部位等にも出現）
 - 【経過】 2～4週間まで自然に軽快
- ※小児や妊婦、免疫不全の方は重症化に注意が必要

アフリカにおけるエムボックスの報告数
 (2024年1月1日～8月25日)



川崎市
 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年9月3日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年9月2日（月）～令和6年9月8日（日）〔令和6年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は8.95人と前週（7.38人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は6.30人と前週（6.11人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.19人と前週（2.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

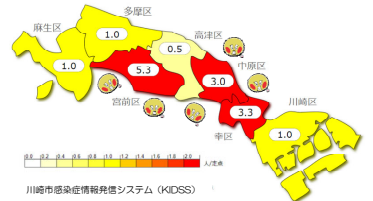


伝染性紅斑の流行発生警報が発令されました！

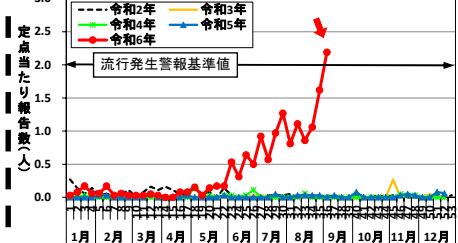
川崎市における令和6年第36週（9月2日～9月8日）の伝染性紅斑の患者報告数が定点当たり2.19人となり、平成30年以来6年ぶりに流行発生警報基準値（定点当たり2.00人）を超えました。区別では、宮前区が定点当たり5.33人と最も多く、次いで幸区が3.25人となっています。また、年齢階級別では、3歳～5歳の報告が半数以上を占めていました。

伝染性紅斑は、かぜ様症状で発症し、両頬に特徴的な紅い発しんが出現する疾患です。予後は良好ですが、妊婦が感染すると胎児に浮腫が生じる胎児水腫等を引き起こす可能性があるため、妊娠中は、かぜ様症状がみられるお子さんとの接触を極力避けましょう。

川崎市における伝染性紅斑分布マップ(第36週)



川崎市における伝染性紅斑発生状況(5年間)



妊娠中の方は要注意！
 妊娠中（特に妊娠初期）に伝染性紅斑に感染すると、胎児の心機能が低下し、胸や腹等に水がたまる胎児水腫を引き起こすことがあります。また、流産や死産の原因となることもあります。

川崎市
 KAWASAKI CITY

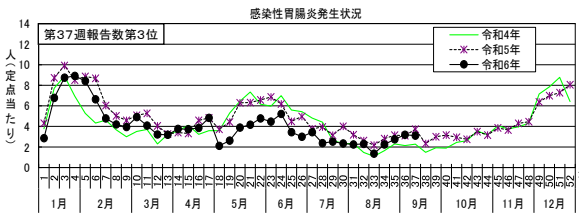
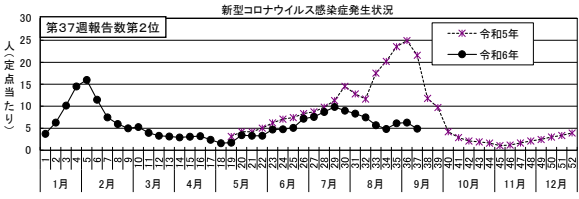
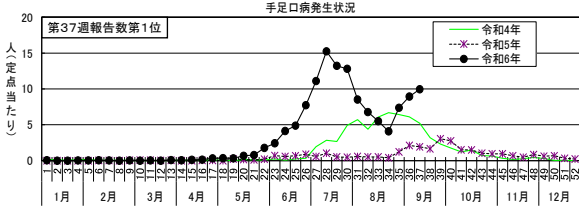
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年9月10日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年9月9日（月）～令和6年9月15日（日）〔令和6年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。手足口病の定点当たり患者報告数は9.95人と前週（8.95人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.90人と前週（6.30人）から減少しました。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.11人と前週（3.19人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



HPVワクチンのキャッチアップ接種を忘れずに！

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、感染すると皮膚に良性の腫瘍やいぼができたり、子宮頸がんの原因となることがあります。HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するためのワクチンであり、我が国では小学校6年生相当から高校1年生相当の女子を対象に、定期予防接種を実施しています。

また、現在、定期接種期間内に接種を逃した平成9年度～平成19年度生まれの女子を対象にキャッチアップ接種が行われており、公費接種の期限は令和7年3月31日です。期間内に接種を完了するには、令和6年9月末までに1回目の接種を受けることが望ましいため、接種を希望される方は早めに接種をお願いします。

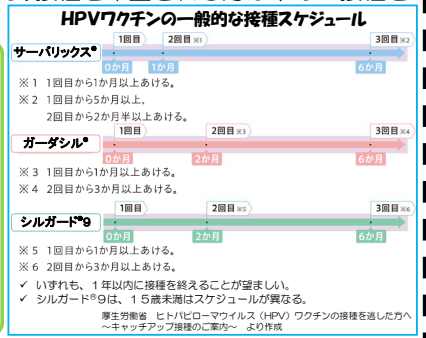
川崎市HPVワクチンキャッチアップ接種について

対象者：接種日時時点で川崎市に住居登録がある、平成9年度～平成19年度生まれの女子で、過去に子宮頸がん予防ワクチンを合計3回受けていない方

実施期間：令和4年4月1日～令和7年3月31日

接種ワクチン：HPVワクチン
 > サーバリックス（2価ワクチン）
 > ガーダシル（4価ワクチン）
 > シルガード9（9価ワクチン）

接種費用：無料
 ※詳細は川崎市ホームページ「ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症（子宮頸がんワクチン）の予防接種について」をご覧ください。



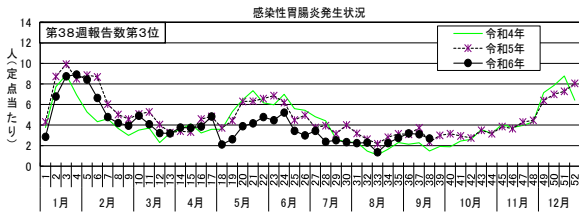
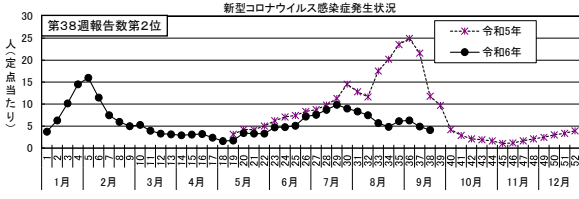
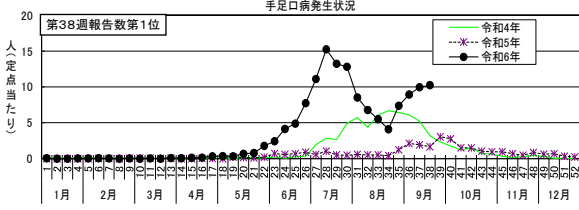
川崎市 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年9月18日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年9月16日（月）～令和6年9月22日（日）〔令和6年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。手足口病の定点当たり患者報告数は10.25人と前週（9.95人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.12人と前週（4.90人）から横ばいでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.69人と前週（3.11人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

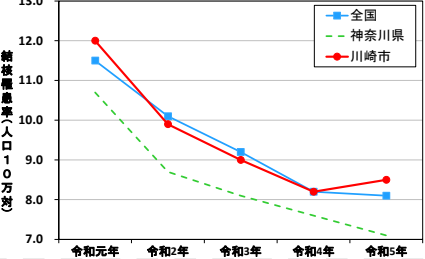


9月24日～30日は「結核・呼吸器感染症予防週間」です！

令和6年9月24日から9月30日は「結核・呼吸器感染症予防週間」です。川崎市における令和5年の結核罹患率は、令和4年から増加して8.5（人口10万対）となり、全国や神奈川県全体を上回っています。結核の初期症状は咳や発熱等、風邪に似ているため、気が付かないうちに進行することがあります。咳や痰が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

また、秋から冬にかけて流行する呼吸器感染症でも発熱や咳はみられます。呼吸器感染症の多くは飛沫感染や接触感染で広がるため、手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。なお、ワクチンが有効な疾患もありますので、対象となる方は接種を御検討ください。

全国、神奈川県、川崎市における結核罹患率の年次推移
 一令和元年～令和5年一



呼吸器感染症の予防対策

- マスクの着用
- 手指衛生
- ワクチン接種
- 咳エチケット

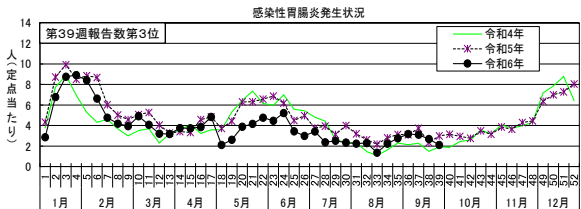
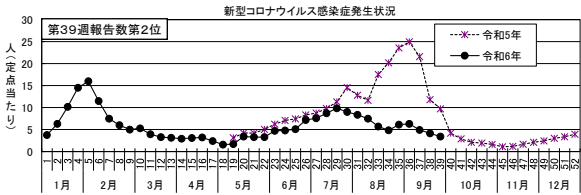
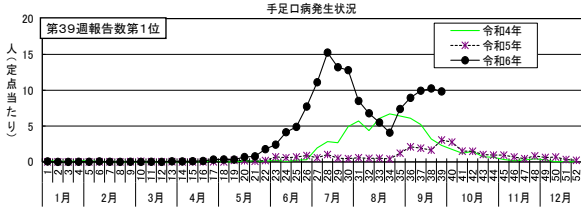
川崎市 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年9月25日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年9月23日（月）～令和6年9月29日（日）〔令和6年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は9.84人と前週（10.25人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.43人と前週（4.12人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.11人と前週（2.69人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

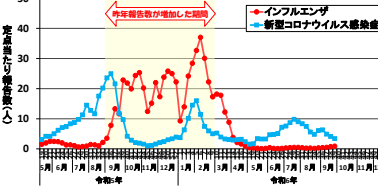


高齢者対象のインフルエンザ及び新型コロナワクチン定期接種を開始！

川崎市では令和6年10月1日から、高齢者を対象としたインフルエンザ及び新型コロナワクチンの定期予防接種を開始しました。いずれのワクチンも免疫を獲得するまで2週間程度かかるため、流行前に接種を済ませておくことが重要です。

川崎市における令和6年第39週（9月23日～29日）のインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、各0.89人、3.43人と、現時点では急激な増加はみられていません。しかし、両疾患とも例年秋から冬にかけて報告数が増加するため、接種対象の方は早めの接種を御検討ください。

川崎市におけるインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数（令和5年第19週～令和6年第39週）



高齢者を対象としたインフルエンザ及び新型コロナワクチンの定期予防接種

- ◆対象者
川崎市内に住居登録のある方で、次の①又は②に該当する方
①接種日に65歳以上の方
②接種日に60歳～64歳の方
・心臓、腎臓、呼吸器の機能障害（障害1級程度）を有する方
・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害（障害1級程度）を有する方
- ◆実施期間と回数
令和6年10月1日から令和7年1月31日までの間に1回
- ◆接種を受けられる場所
川崎市予防接種個別協力医療機関
- ◆自己負担金
インフルエンザワクチン：2,300円（税込）
新型コロナワクチン：3,000円（税込）
※詳細は川崎市ホームページをご覧ください。

川崎市 KAWASAKI CITY

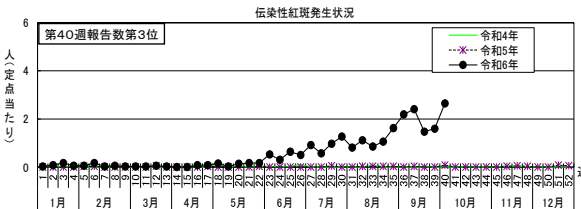
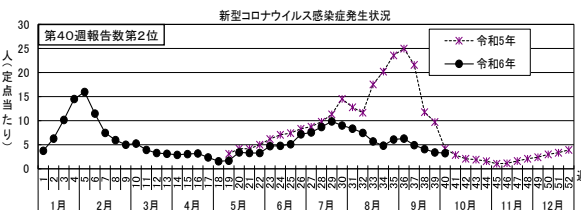
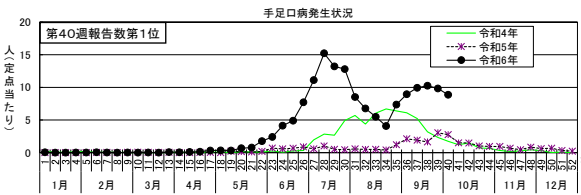
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年10月1日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年9月30日（月）～令和6年10月6日（日）〔令和6年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）伝染性紅斑でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は8.86人と前週（9.84人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.26人と前週（3.43人）から横ばいでした。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.65人と前週（1.59人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



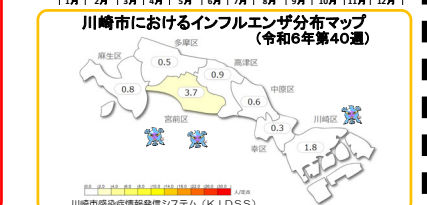
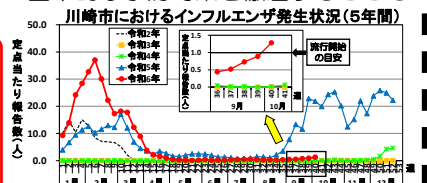
インフルエンザの流行期に入りました！

川崎市における令和6年第40週（9月30日～10月6日）のインフルエンザの定点当たり報告数は1.28人となり、流行開始の目安である定点当たり1.00人を超えました。区別では、宮前区が定点当たり3.70人と最も多く、次いで川崎区が1.75人となっています。また、第40週は宮前区の小学校においてインフルエンザによる学級閉鎖の報告もありました。

感染を広げないために、手洗いなどの基本的な予防対策を徹底するとともに、咳エチケットも心がけましょう。

インフルエンザとは？

- 【感染経路】飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】1～3日間
- 【主な症状】発熱（通常38℃以上）、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等
- 【予防対策】
 - ・ワクチン接種
 - ・マスクの着用
 - ・十分な換気
 - ・手洗いの徹底、手指消毒
 - ・適度な湿度の保持
 - ・人混みや繁華街への外出を控える。
 - ・十分な休養とバランスのとれた食事



川崎市 KAWASAKI CITY

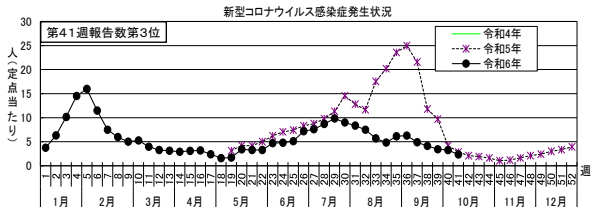
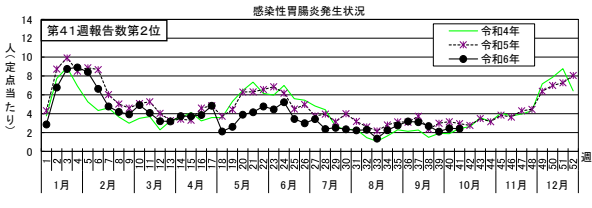
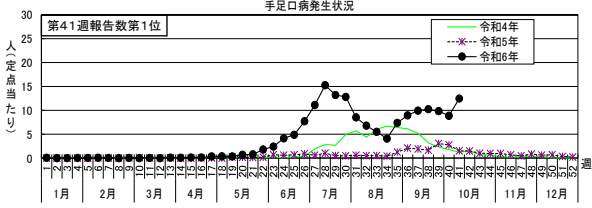
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年10月8日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年10月7日（月）～令和6年10月13日（日）〔令和6年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は12.49人と前週（8.86人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.41人と前週（2.46人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.36人と前週（3.26人）から減少しました。

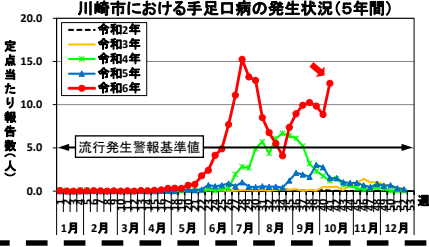
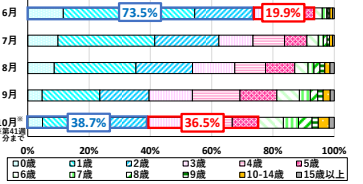


手足口病～報告数が再び大きく増加しています！～

手足口病はコクサッキーウイルスを主な原因とする感染症で、口の中や手足等に水疱を伴う発疹がみられます。川崎市では、令和6年7月に流行のピークとなった後、報告数は一旦減少したものの、流行は終息することなく、第41週（10月7日～13日）には定点当たり12.49人と、再び大きく増加しました。また、6月時点で73.5%と半数以上を占めていた2歳以下の割合が、10月には38.7%と減少しました。一方、3～5歳の割合は、6月には19.9%でしたが、10月は36.5%と大幅に増加しました。

手足口病は、接触や飛沫による感染のリスクが高いため、保育園等の集団施設では、手洗いやタオルの共用は避ける等の予防対策を徹底しましょう。

川崎市における手足口病の月別年齢別発生状況
令和6年6月～10月



手足口病の予防対策



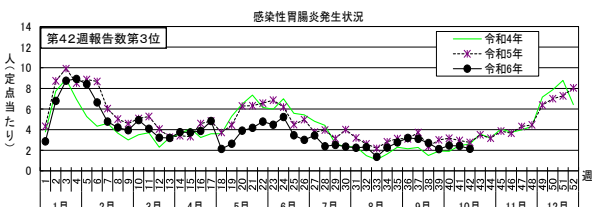
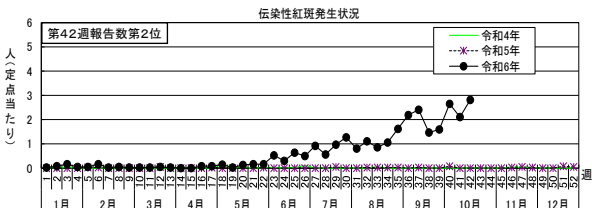
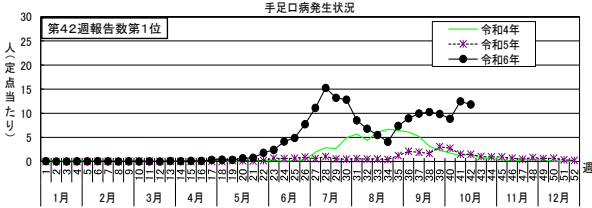
川崎市
KAWASAKI CITY
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年10月16日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年10月14日（月）～令和6年10月20日（日）〔令和6年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）伝染性紅斑 3）感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は11.84人と前週（12.49人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.81人と前週（2.11人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.14人と前週（2.41人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



梅毒の報告数が急増し過去最多に～先天梅毒を防ぎましょう！～

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により感染します。初期には潰瘍や皮しん等の皮膚症状がみられますが、未治療のまま放置すると心臓や血管等に病変が生じ、時には死に至ることもあります。特に妊婦が感染した場合、流産、死産となる可能性や、胎児の神経や骨等に異常をきたす「先天梅毒」を発症する可能性があり、大きな問題となっています。

川崎市における梅毒の報告数は、令和6年第42週（10月14日～20日）に8件と急増しました。年間の報告数は現時点で計131件と、感染症法*が施行された平成11年以降最多となり、先天梅毒の報告はないものの、妊婦の感染例はみられています。先天梅毒を防ぐには、妊婦への適切な抗菌薬治療が重要ですので、感染が疑われる場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

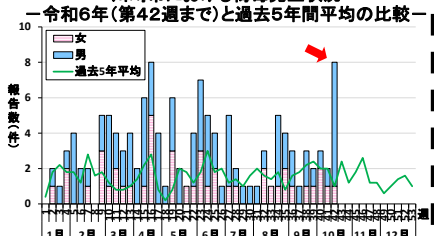
先天梅毒とは？

【症状】
 出生時は無症状のことが多い。
 ・早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）
 皮膚症状、肝脾腫、骨軟骨炎等
 ・晚期先天梅毒（生後約2年以降に発症）
 角膜内部の炎症、感音性難聴、歯牙変形等

【予防】
 定期的な妊婦健診、疑わしい症状がある場合の検査、早期治療、妊娠中の安全な性交渉

【治療】
 抗菌薬治療

川崎市における梅毒発生状況
令和6年（第42週まで）と過去5年間平均の比較



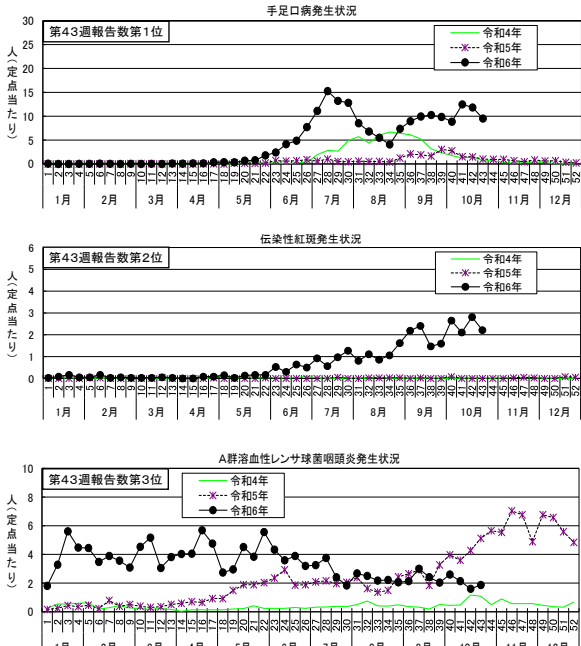
川崎市
KAWASAKI CITY
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年10月22日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年10月21日（月）～令和6年10月27日（日）〔令和6年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）伝染性紅斑 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は9.51人と前週（11.84人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.22人と前週（2.81人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.86人と前週（1.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

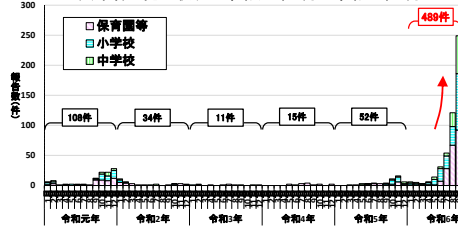


小児の感染が増えています！～マイコプラズマ肺炎～

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマを病原体とする細菌感染症で、発熱やだるさ、頭痛、乾いた咳等の症状がみられます。熱が下がった後も咳が数週間程度続き、肺炎を合併して入院が必要となることもあります。

マイコプラズマ肺炎の患者は約8割が14歳以下とされており、家庭内に加え、保育園や小学校等の集団施設においても、飛沫や接触により感染が広がることがあります。令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の流行による影響を受けて、集団施設での報告はほとんどみられていませんでしたが、令和6年は6月以降報告数が大きく増加し、10月中旬には学級閉鎖もみられました。手洗いやタオル等の共用を避ける、咳エチケット等の対策が有効ですので、可能な限り予防対策の徹底を心がけましょう。

川崎市内の集団施設におけるマイコプラズマ感染症による欠席者の発生状況—令和元年1月～令和6年9月—



マイコプラズマ肺炎の予防対策

※一般的な飛沫・接触感染の予防対策と同様です。

- 流水と石けんによる手洗い
- タオル等の共用は避ける
- 咳エチケットの徹底
- 大人はマスク着用

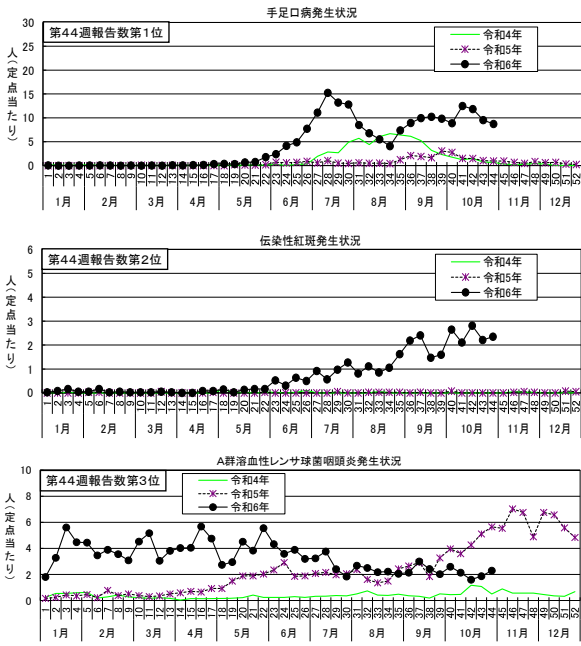
川崎市 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 令和6年10月29日作成
 （問合せ先）044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年10月28日（月）～令和6年11月3日（日）〔令和6年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）伝染性紅斑 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は8.70人と前週（9.51人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.35人と前週（2.22人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.30人と前週（1.86人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～ボツリヌス症～

令和6年第44週（10月28日～11月3日）に川崎市内でボツリヌス症の報告が1件ありました。全国的にボツリヌス症の報告は稀で、年間数件しかみられません。市内でも令和3年以来3年ぶりの発生となりました。

ボツリヌス症は、ボツリヌス菌等が産生する毒素により麻痺を引き起こす疾患で、成人では主に毒素に汚染された食品の喫食により感染します（食餌性ボツリヌス症）。過去には真空パック詰食品を原因とする事例もあり、パックが膨らんでいたり、開封時に変なにおいがある場合は食べないことが重要です。

また、1歳未満の乳児ではハチミツの摂取を原因とする乳児ボツリヌス症がよく知られているので、乳児にハチミツ及びハチミツを含む食品を食べさせないようにしましょう。

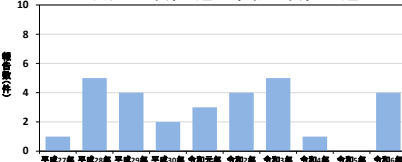
食餌性ボツリヌス症とは？

食餌性ボツリヌス症は、ボツリヌス菌が食品内で産生した毒素を摂取することで発症します。ボツリヌス菌は酸素の少ない状態で毒素を産生するため、真空パック詰食品や缶詰等が原因となります。真空パックや缶詰が膨らんでいたり臭気がある場合は、食べないようにしましょう。

乳児ボツリヌス症とは？

乳児は腸内細菌の性状が成人と異なるため、乳児の腸内ではボツリヌス菌が増殖し、毒素を産生することがあります。そのため、ハチミツに混入したボツリヌス菌を乳児が摂取すると発症することがあるため、乳児はハチミツ及びハチミツを含む食品の摂取を避ける必要があります。

全国におけるボツリヌス症発生状況—平成27年第1週～令和6年第43週—



川崎市 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 令和6年11月6日作成
 （問合せ先）044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年11月4日（月）～令和6年11月10日（日）〔令和6年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）感染性胃腸炎 3）伝染性紅斑でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.19人と前週（8.70人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.19人と前週（2.08人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は1.97人と前週（2.35人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

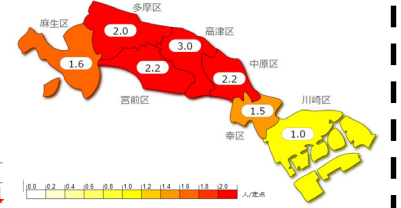


流行が続いています！～伝染性紅斑～

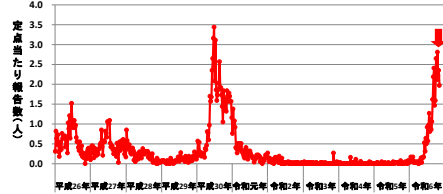
伝染性紅斑は一般的には「リンゴ病」と呼ばれ、両頬に特徴的な紅い発しんが現れる疾患です。今年は、大きな流行がみられた平成30年と同程度の流行が続いており、第45週（11月4日～10日）は中原区、高津区及び宮前区で流行発生警報基準値（定点当たり2.00人）を超えています。

予後は良好ですが、妊婦が感染すると胎児に浮腫が生じる胎児水腫や流産等を引き起こすことがあります。両頬や四肢に発しんが現れる頃には感染力は消失していますが、発しん出現前のかぜ様症状がみられる時期に感染力が最も強くなります。妊娠中の方はかぜ様症状がみられるお子さんとの接触を極力避けましょう。

川崎市における伝染性紅斑分布マップ(第45週)



川崎市における伝染性紅斑の発生状況
平成26年第1週～令和6年第45週



妊娠中の方は要注意！

妊娠中（特に妊娠初期）に伝染性紅斑に感染すると、胎児の心機能が低下し、腹水や胸水がたまる胎児水腫を引き起こすことがあります。また、流産や死産の原因となることもあります。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年11月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年11月11日（月）～令和6年11月17日（日）〔令和6年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）伝染性紅斑 3）感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は4.54人と前週（6.19人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は3.30人と前週（1.97人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.86人と前週（2.19人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

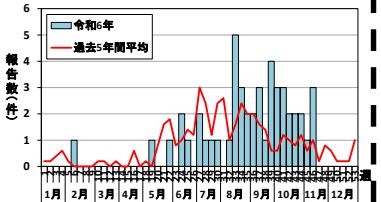


腸管出血性大腸菌感染症にも御注意を！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とする感染症です。主に夏季に流行しますが、今年は10月以降も報告が続いています。腸管出血性大腸菌は牛等が腸管内に保菌しているため、肉類の喫食には注意が必要です。感染を防ぐためには、食材を十分に加熱（中心部の温度75℃で1分以上）し、生肉や加熱不十分肉類の喫食は避けましょう。

また、国立感染症研究所が発行している「DWR*」によると、韓国で喫食したユッケや生レバーが原因と推定される事例が増加しているとのことです。生食用牛肉の提供の法規制は国や地域により異なりますが、生肉の摂取が感染リスクとなることは変わりません。渡航先でも肉類は十分に加熱してから食べることが重要です。*感染症発生動向調査週報

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
令和6年（第46週まで）と過去5年間平均の比較



【焼肉・バーベキュー等を楽しむために～トングとお箸の使い分け～】

- ①生肉をトングでつかみ、
- ②片面が焼けたら、トングを使って肉を裏返す。
- ③肉をよく焼き、箸を使って取り上げる。



よく噛んで食べましょう。

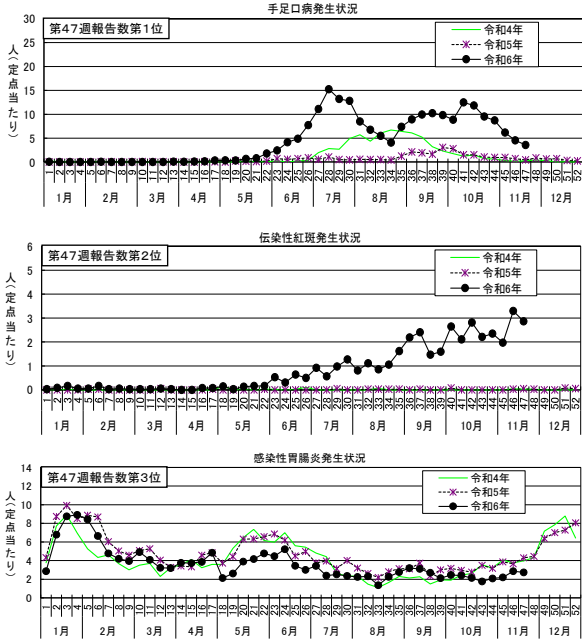
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年11月19日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年11月18日（月）～令和6年11月24日（日）〔令和6年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）伝染性紅斑 3）感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は、5.7人と前週（4.54人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は、2.86人と前週（3.30人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、2.73人と前週（2.86人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

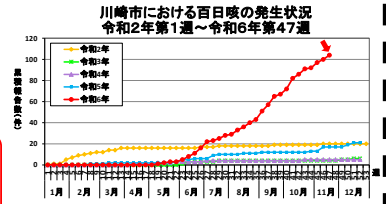


百日咳が流行中～乳児への感染を防ぎましょう！～

百日咳は年齢を問わず感染する疾患ですが、成人は軽症の場合が多く、気が付かないまま感染源となることがあります。特に生後6か月以下の乳児は重症化しやすく、死亡する可能性もあるため、感染を防ぐことが重要です。

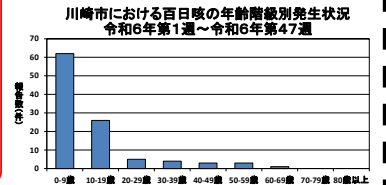
川崎市では、今年は6月以降、百日咳の報告数が急増しており、特に0～9歳の割合が59.6%と、昨年（47.6%）より増加しています。

百日咳菌の気道からの排出は、咳症状が現れてから約3週間持続しますが、早期に適切な抗菌薬を使用することで排菌期間が短くなり、感染拡大を防ぐことができます。咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。



百日咳とは

【病原体】百日咳菌
 【感染経路】咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染
 【主な症状】
 ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
 ②痙咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る咳発作がみられる。
 ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が継続する。
 【予防方法】百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）



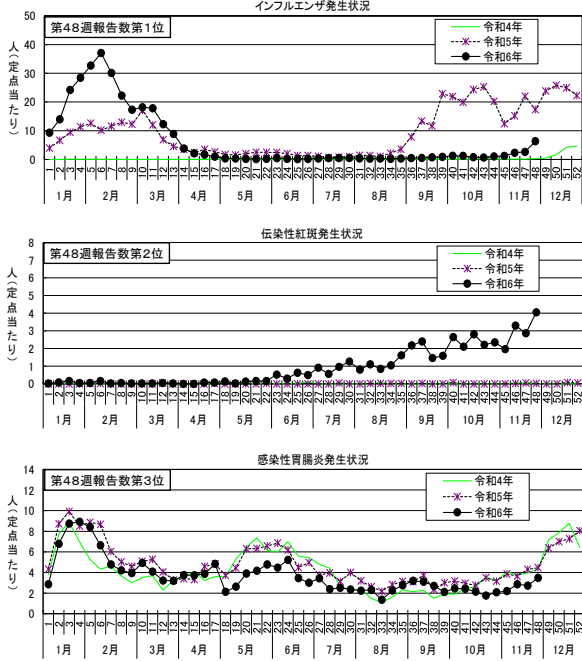
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年11月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年11月25日（月）～令和6年12月1日（日）〔令和6年第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）伝染性紅斑 3）感染性胃腸炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は、6.31人と前週（2.62人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は、4.05人と前週（2.86人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、3.49人と前週（2.73人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



水痘（水ぼうそう）の報告数が急増しました！

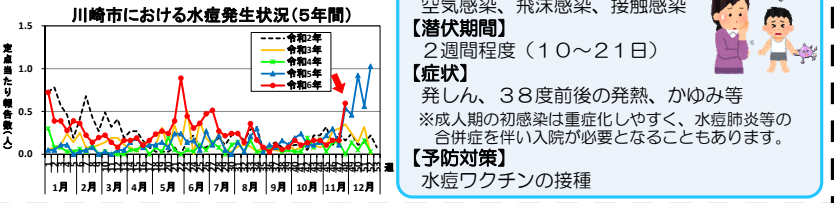
水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスに初めて感染した際に発症する感染症です。川崎市における水痘の定点当たり報告数は令和6年第48週（11月25日～12月1日）に0.59人となり、前週（0.16人）から大幅に増加しました。

水痘の予防にはワクチンが有効であり、平成26年10月から小児の水痘ワクチンが定期接種化されています。しかし、中学生の一部や高校生は定期接種化される前の世代であり、水痘に対する免疫が不十分な方もいらっしゃるため、学校等の集団施設での流行状況には注意が必要です。さらに、免疫がない成人が感染すると、肺炎等を併発し重症化しやすいといわれています。

水痘ワクチンの接種機会がなく、り患歴もない方は、任意接種も可能ですので、必要な場合は医療機関に相談しましょう。

水痘とは？

【病原体】水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）
 【感染経路】空気感染、飛沫感染、接触感染
 【潜伏期間】2週間程度（10～21日）
 【症状】発しん、38度前後の発熱、かゆみ等
 ※成人期の初感染は重症化しやすく、水痘肺炎等の合併症を伴い入院が必要となることもあります。
 【予防対策】水痘ワクチンの接種



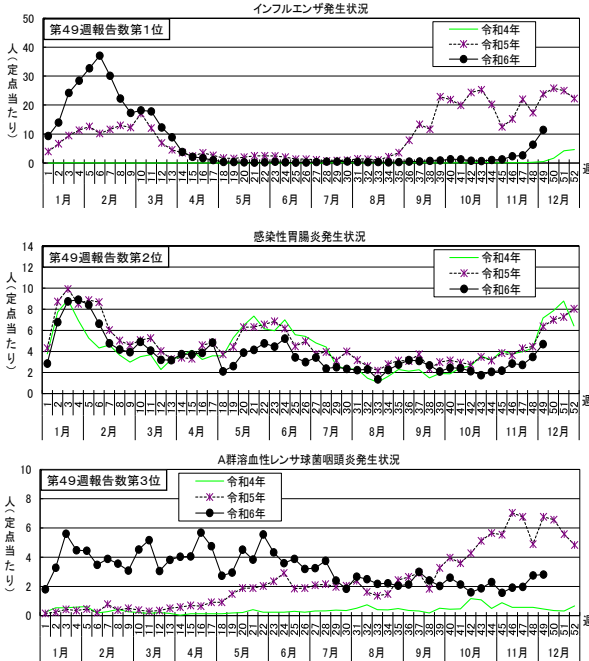
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年12月3日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

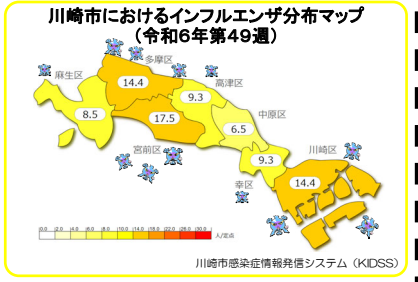
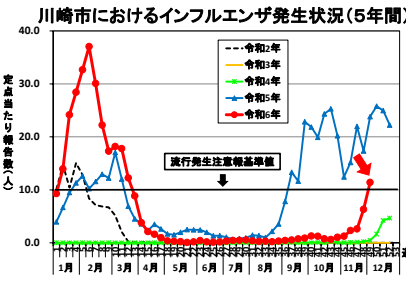
令和6年12月2日（月）～令和6年12月8日（日）〔令和6年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.41人と前週(6.31人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.70人と前週(3.49人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.81人と前週(2.76人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザの流行発生注意報が発令されました！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和6年第49週(12月2日～8日)に11.41人となり、流行発生注意報基準値(定点当たり10.00人)を超えました。区別では、宮前区が定点当たり17.50人と最も多く、次いで川崎区及び多摩区が各14.38人となっています。
 なお、今シーズンにインフルエンザ様疾患として健康安全研究所に搬入された32検体中19検体からインフルエンザウイルスが検出されており、その内訳は、A/H1pdm09型が15件、A香港型が3件、B型が1件でした。
 今シーズンは11月下旬以降、小学校や中学校等の集団施設における学級閉鎖の報告数も急増していますので、咳エチケットやマスクの着用、手指衛生等の予防対策を徹底しましょう。



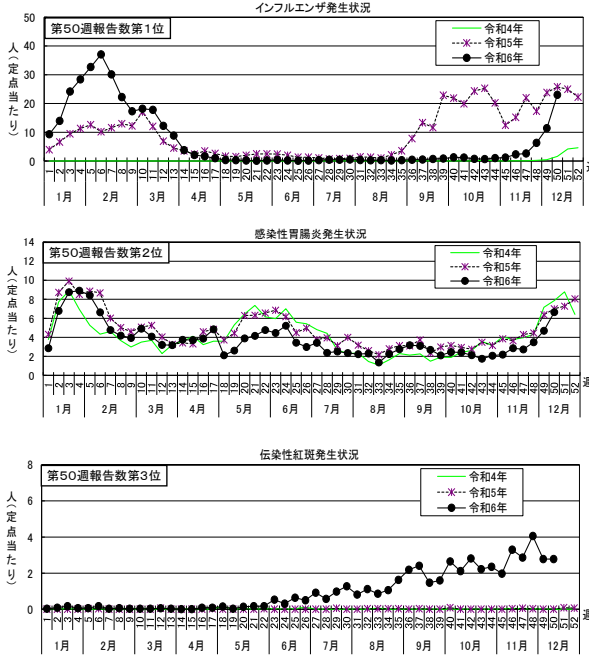
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
 (問合せ先) 044-276-8250 令和6年12月10日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

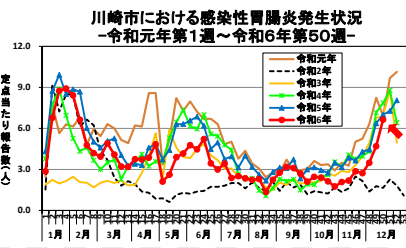
令和6年12月9日（月）～令和6年12月15日（日）〔令和6年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) 伝染性紅斑でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は23.02人と前週(11.41人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.65人と前週(4.70人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.78人と前週(2.78人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



冬場は感染性胃腸炎にも御注意ください！

感染性胃腸炎は、ウイルス(ノロウイルスやロタウイルス等)や細菌等を病原体とする感染症で、通常秋から冬にかけて患者報告数が増加します。川崎市においても、令和6年は感染性胃腸炎の定点当たり報告数が12月上旬から増加しており、第50週(12月9日～12月15日)には6.65人となりました。流行のピークは例年12月から1月にみられることから、今後さらに患者数が増加する可能性もあります。
 感染の拡大を防止するためには、感染した方の便や吐物を適切に処理することが重要です。特に冬季に多くみられるノロウイルスに対しては、塩素消毒液が有効ですので、適切な濃度の消毒液を使用するようにしましょう。



塩素消毒液(次亜塩素酸ナトリウム希釈液)の作り方

食器、カーテン等の消毒や拭き取り (0.02%(200ppm)の塩素消毒液)		
製品濃度	次亜塩素酸ナトリウムの量	水の量
12%	5ml	3L
6%	10ml	3L
1%	60ml	3L

おう吐物等の廃棄(袋の中で廃棄物を浸す) (0.1%(1000ppm)の塩素消毒液)		
製品濃度	次亜塩素酸ナトリウムの量	水の量
12%	25ml	3L
6%	50ml	3L
1%	300ml	3L

※おう吐物等の酸性のものに直接原液をかけること、有毒ガスが発生するおそれがありますので、必ず「使用上の注意」をよく確認してから使用してください。
 ※次亜塩素酸ナトリウムは使用期限内のものを使用してください。

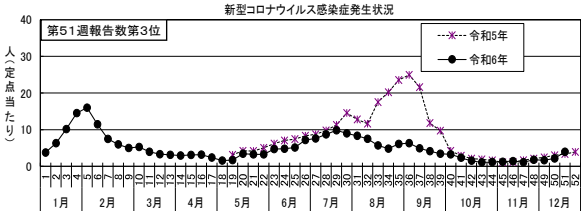
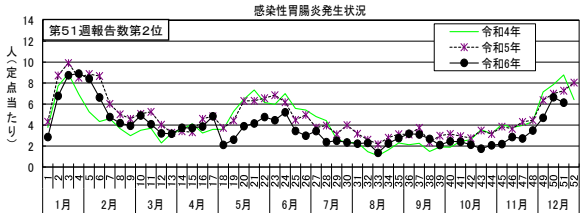
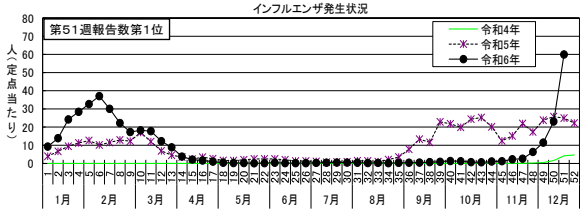
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
 (問合せ先) 044-276-8250 令和6年12月17日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年12月16日（月）～令和6年12月22日（日）〔令和6年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は59.92人と前週（23.02人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.14人と前週（6.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.97人と前週（2.15人）から増加しました。



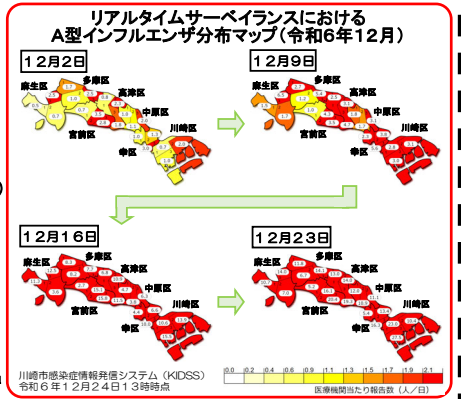
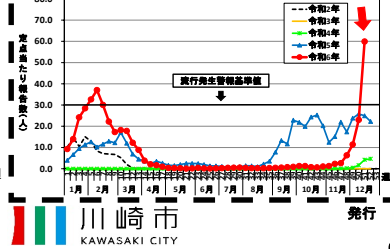
インフルエンザの流行発生警報発令！～入院患者も急増しています～

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和6年第51週（12月16日～22日）に59.92人となり、流行発生警報基準値（定点当たり30.00人）を超えました。さらに、基幹定点からの入院患者の報告数も定点当たり7.00人と、前週（2.00人）から急増しています。

本市のリアルタイムサーベイランスにおいても、12月中旬以降患者数の急激な増加がみられており、第51週は、特に宮前区において医療機関当たり報告数が多くなっています。

インフルエンザは高熱が続くだけでなく、肺炎や脳炎等を合併することもあります。症状の変化には十分注意し、悪化する場合は早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



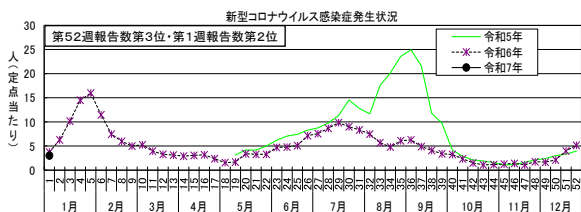
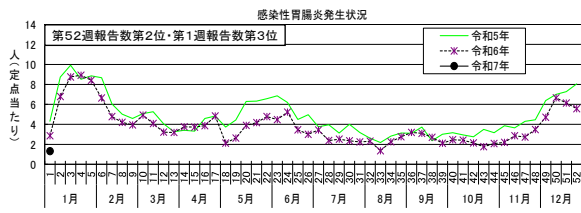
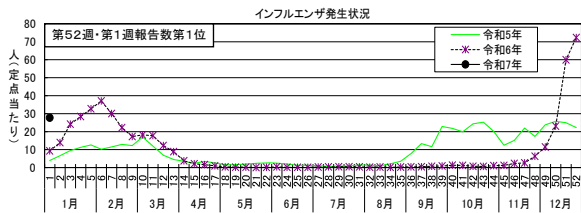
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年12月24日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年12月23日（月）～29日（日）〔令和6年第52週〕及び令和6年12月30日（月）～令和7年1月5日（日）〔令和7年第1週〕の感染症発生状況

令和6年第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。
 令和7年第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。
 令和6年第52週のインフルエンザの定点当たり患者報告数は72.28人と前週（59.92人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 令和7年第1週は、年末年始で多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



海外から帰国後は体調変化に注意しましょう！

年末年始の長期休暇に海外旅行をされた方も多いかと思いますが、帰国後に体調不良を訴える方は多いとされており、国内で発生していない感染症に罹患している可能性もあります。帰国後に発熱や下痢、発しん等の症状がみられる場合は、事前に医療機関に電話等で相談の上、受診を検討しましょう。また、受診の際には適切な診断を受けるために、症状に加えて、渡航先や渡航期間、渡航中の行動歴等を医療機関にお伝えください。

<p>発熱</p> <p>発展途上国から帰国した人の2～3%にみられます。自然におさまることもあります。一部は急速に進行し、命にかかわる場合もあります。</p>	<p>下痢</p> <p>海外旅行に行った人の半数以上が旅行先で下痢を起こすといわれています。通常は数日でおさまりますが、症状が続く場合は、寄生虫による感染症等も考えられます。</p>	<p>発しん</p> <p>ウイルスや細菌、寄生虫等が原因で出現することがあります。発熱を伴う場合はマラリア等の全身性感染症の可能性もあり、緊急で処置が必要になることもあります。</p>
---	---	--

医療機関受診前のチェックリスト

<input type="checkbox"/> 生の水を飲んだ <input type="checkbox"/> 氷入りの飲み物を飲んだ <input type="checkbox"/> 加熱していない野菜や果物を食べた <input type="checkbox"/> 屋上の食品を食べた <input type="checkbox"/> 湖や川の水を飲んだ <input type="checkbox"/> 湖や川の水を触った <input type="checkbox"/> 湖や川の中に入った（泳いだ）	<input type="checkbox"/> 蚊に刺された <input type="checkbox"/> ダニに咬まれた <input type="checkbox"/> 動物に咬まれた <input type="checkbox"/> 動物に触った <input type="checkbox"/> 不特定対象の性行為があった <input type="checkbox"/> 周囲に体調の悪い人がいた <input type="checkbox"/> 現地で治療を受けた	<p>厚生労働省検疫所（FORTH）ホームページ 「病院にかかる前のチェックシート」から抜粋</p> <p>ワクチン接種履歴も確認しましょう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 麻疹 <input type="checkbox"/> A型肝炎 <input type="checkbox"/> B型肝炎 <input type="checkbox"/> 狂犬病 <input type="checkbox"/> ボリオ <input type="checkbox"/> 破傷風
--	---	--

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和7年1月7日作成

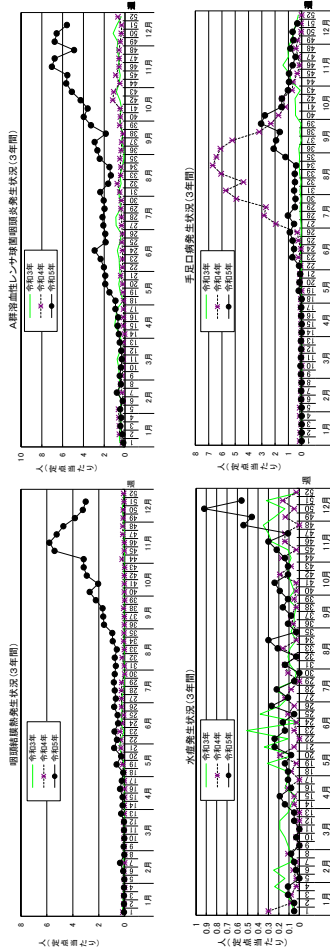
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年1月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 水痘
- 手足口病



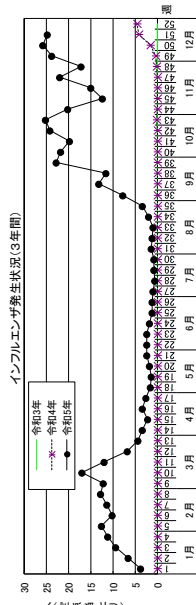
優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年1月1日現在、**流行期**です。
少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

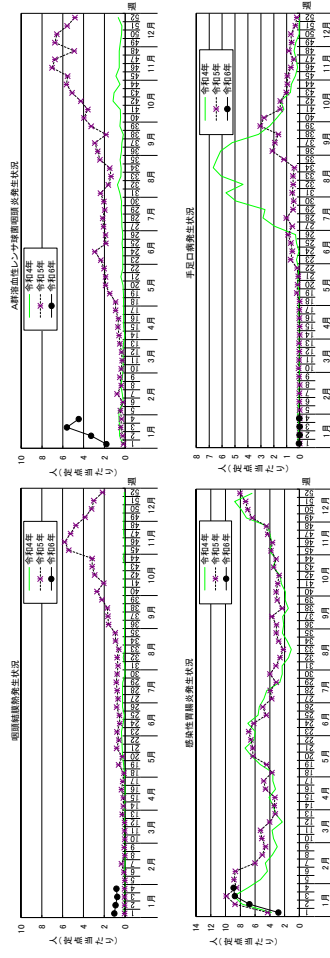
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年2月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 感染性胃腸炎
- 手足口病



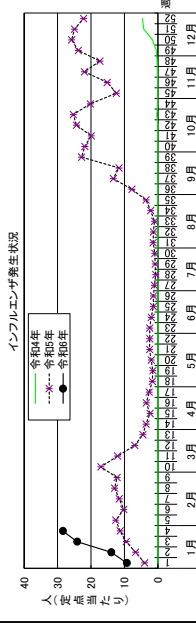
優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年2月1日現在、**流行期**です。
少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

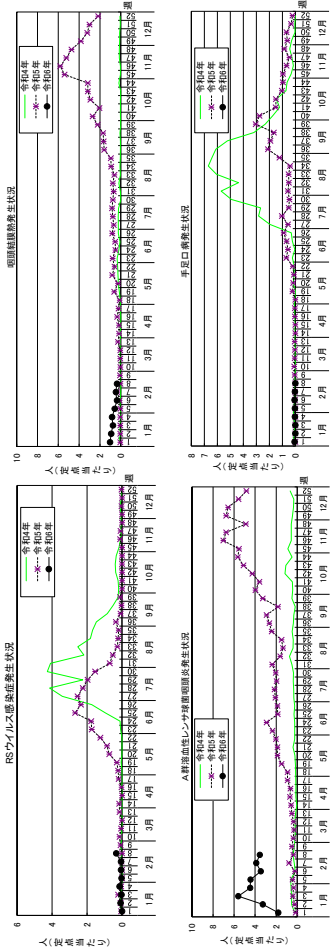
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年3月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- RSウイルス感染症
- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病



優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年3月1日現在、**流行期**です。
少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

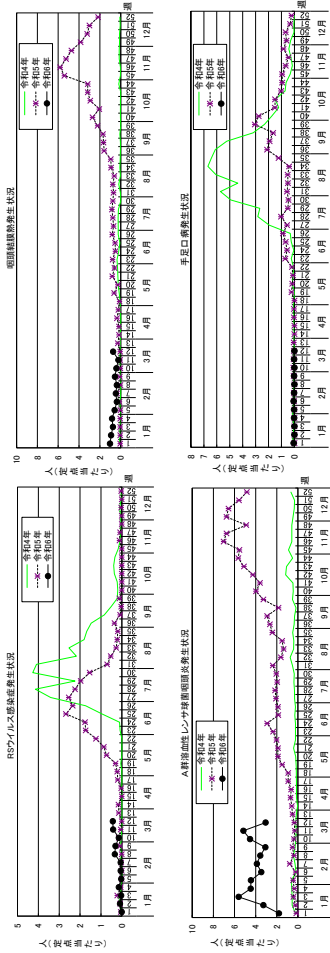
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年4月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- RSウイルス感染症
- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病



優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年4月1日現在、**流行期**です。
少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

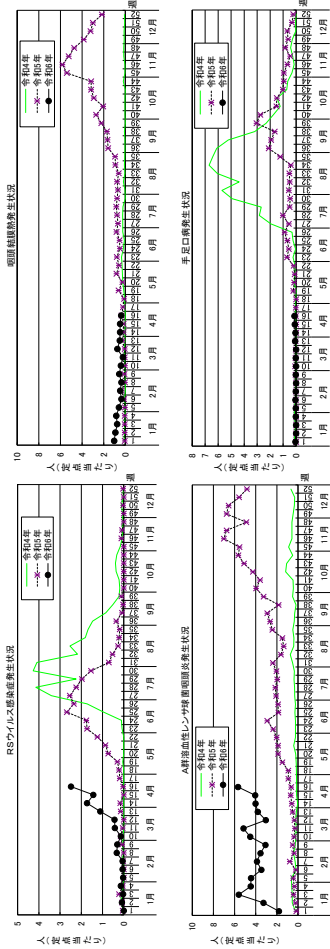
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年5月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- RSウイルス感染症
- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病



優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年5月1日現在、**流行期**です。少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

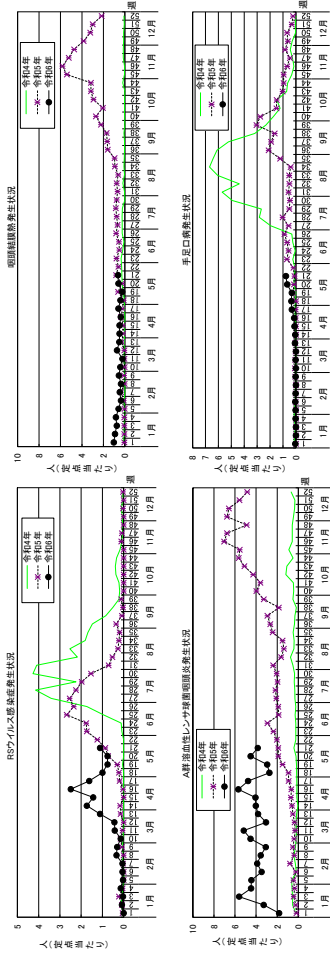
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年6月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- RSウイルス感染症
- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病



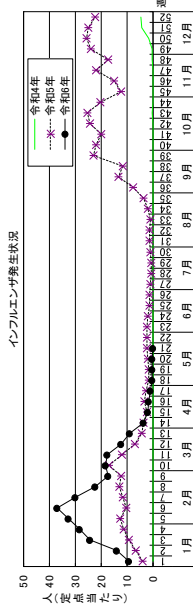
優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年6月1日現在、**非流行期**です。少なくとも**月1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

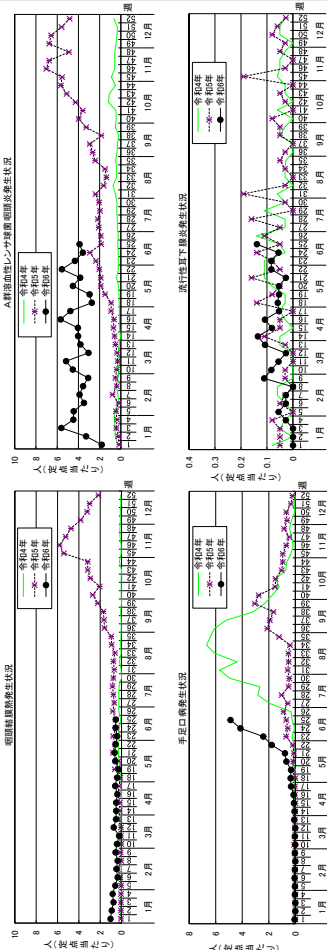
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年7月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病
- 流行性耳下腺炎



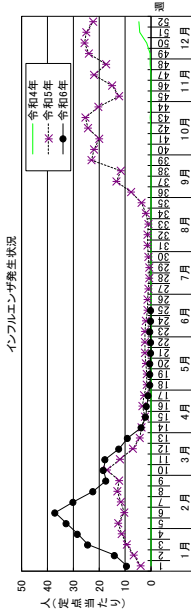
優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年7月1日現在、**非流行期**です。少なくとも**1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

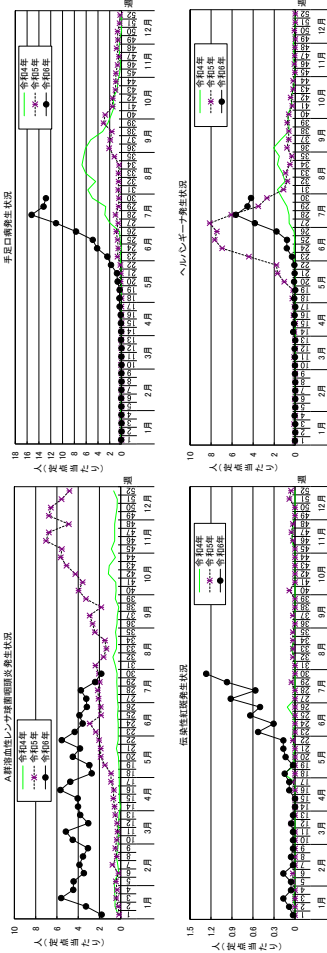
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年8月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病
- 伝染性紅斑
- ヘルパンギーナ



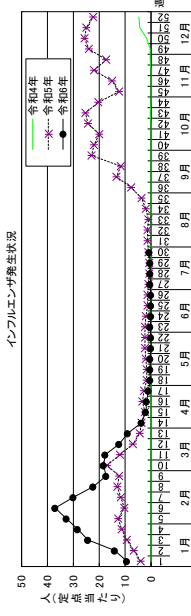
優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年8月1日現在、**非流行期**です。少なくとも**1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

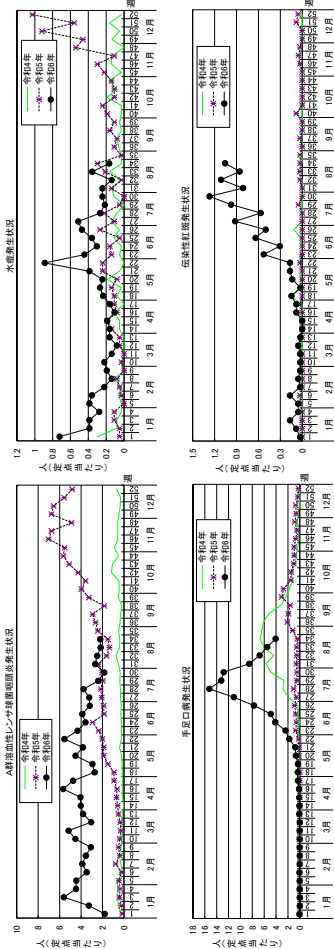
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年9月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 水痘
- 手足口病
- 伝染性紅斑

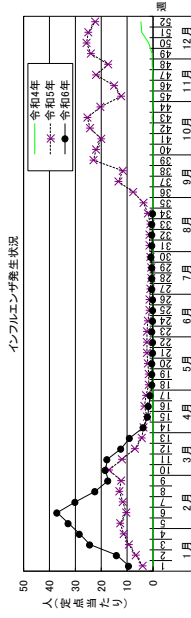


優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患
RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年9月1日現在、**非流行期**です。少なくとも**1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

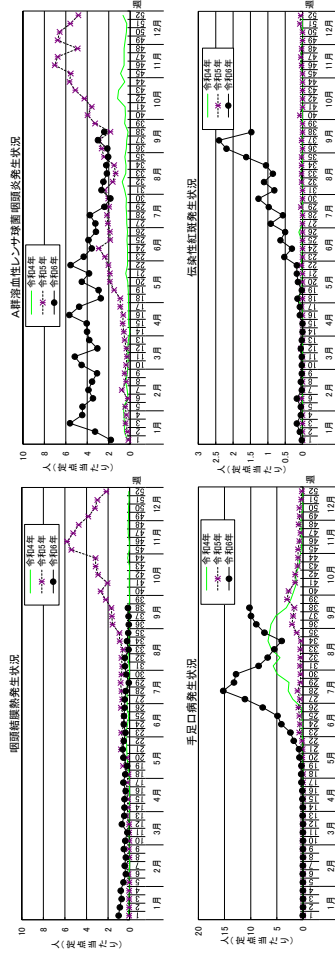
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年10月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病
- 伝染性紅斑

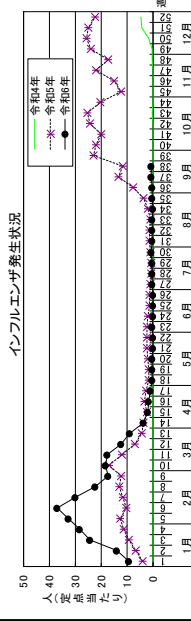


優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患
RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年10月1日現在、**非流行期**です。少なくとも**1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

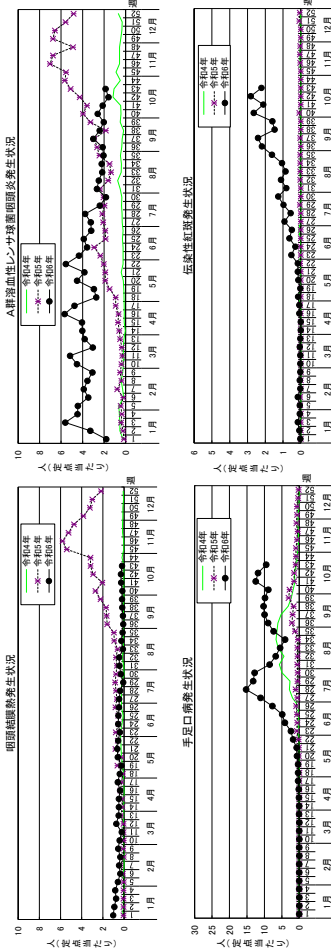
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年11月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 手足口病
- 伝染性紅斑



優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年11月1日現在、**非流行期**です。少なくとも**1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

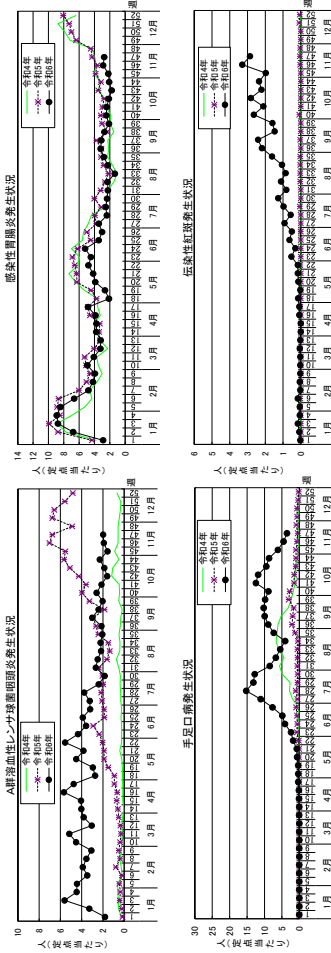
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(令和6年12月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- 伝染性紅斑



優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患

- RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

令和6年12月1日現在、**流行期**です。少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 044-200-2441
川崎市健康安全研究所 044-276-8641

川崎市感染症情報センター事業報告書

2026年3月発行

川崎市健康安全研究所 感染症情報センター担当

〒210-0821

川崎市川崎区殿町3-25-13 川崎生命科学・環境研究センター2階

TEL 044-276-8641 FAX 044-288-2044

E-mail : 40eiken@city.kawasaki.jp

